

地域づくりの担い手としての役割と 新たなコミュニケーション



NPO法人合意形成マネジメント協会理事長
百武 ひろ子

建設業界に若い人が入らない
地域の人々の建設業に対する理解が低い



今はこの状態を変えるチャンス！！

どうしてチャンスなのか？

どうすればこの機会をチャンスにできるのか？



合意形成とは・・・

いろいろな意(思い)を合わせて
一つの形を成す



いい合意形成とはどんな話しあい？

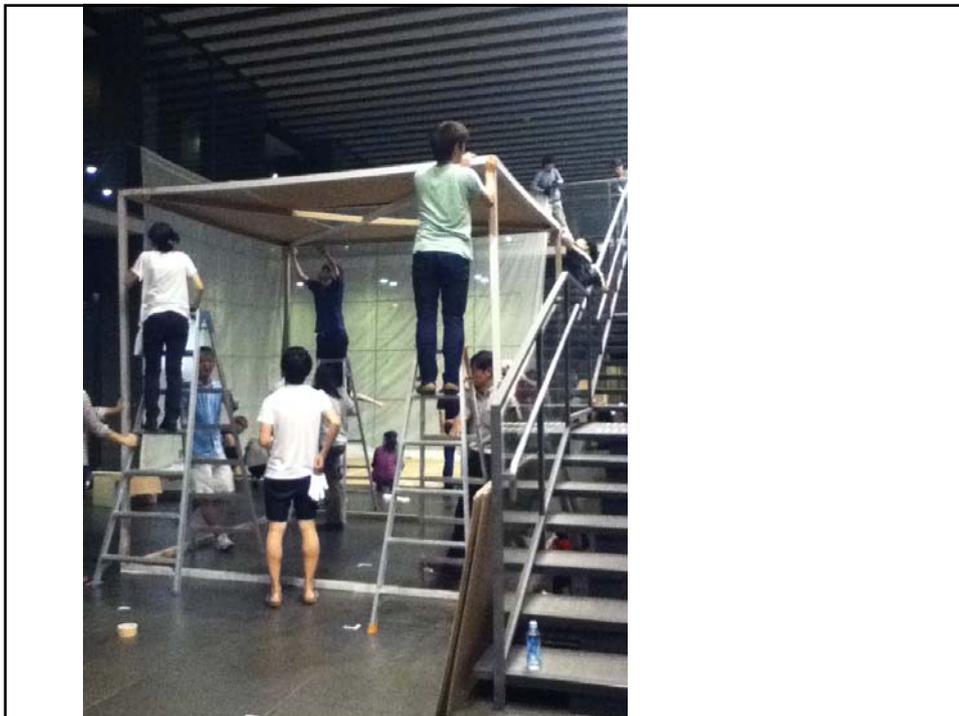


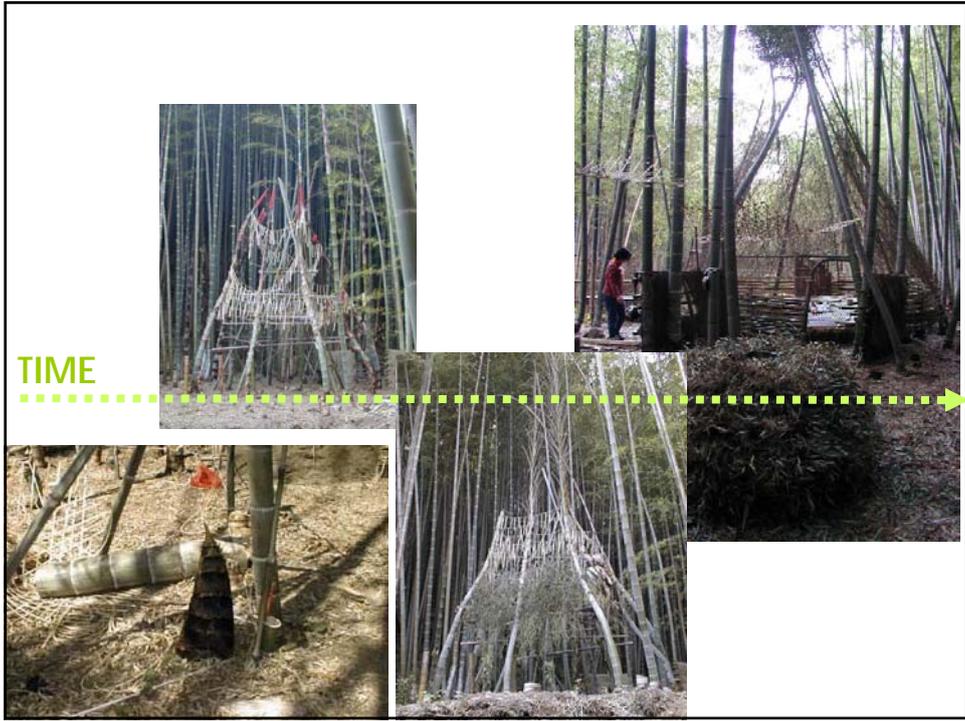
いい合意形成とは **納得のいく** 話しあい

納得：関わった人がそれぞれに得を納めること
⇒得心のいく

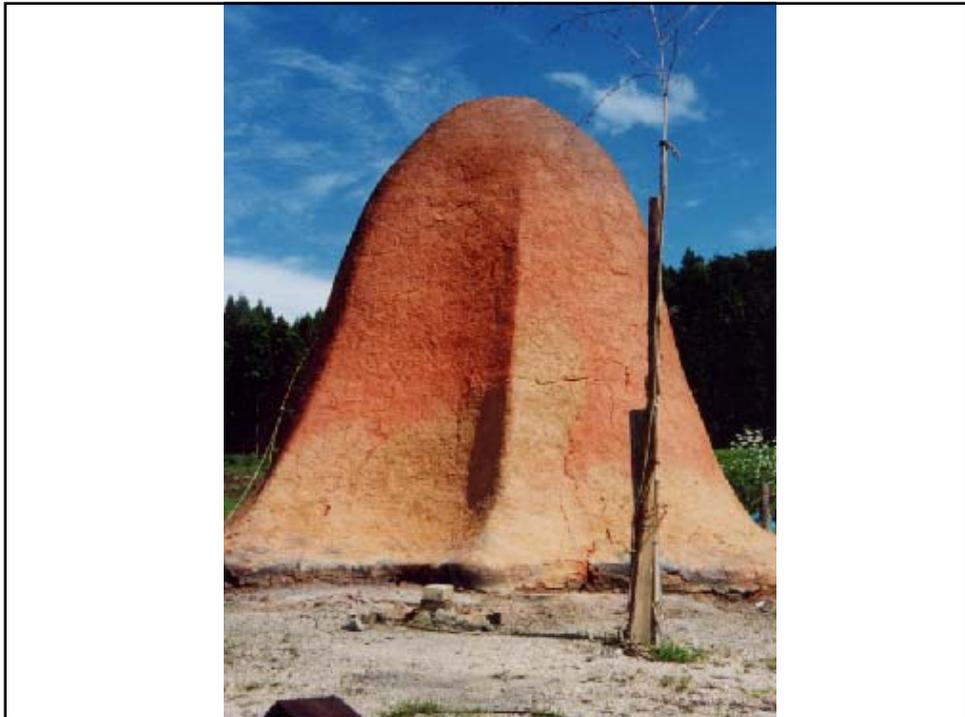
「十分に承知する。よくわかって **気持ち**がおさまる」
気持ち→感じるもの。理屈ではない。

納得には2つある













1. 地域づくりをめぐる変化

①「つくる」から「つかう」「なおす」「もどす」

- ・ 人口減少 日本が史上初めて体験する人口減少
2010年→2050年
6割の地域で人口が半分以下に
うち1/3の地域で人が住まなくなる
約4割の高齢化率
国土交通省: 新たな「国土のグランドデザイン」骨子より
- ・ いっきにくる社会インフラの老朽化
維持管理費は20年で倍増



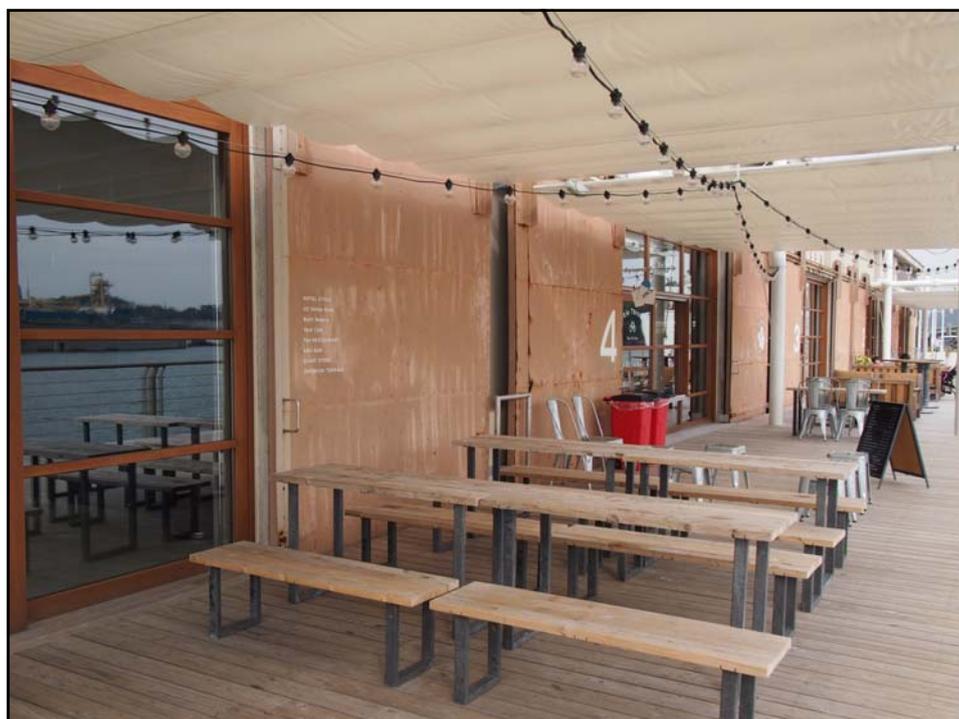
どうつかうか？ どうなおす？ どうもどす？

目利きの技術者の必要性

建設後50年以上経過する社会資本の割合

	2012年3月	2022年3月	2032年度3月
道路橋 約15万7千橋(橋長15以上)	約9%	約28%	約53%
河川管理施設 約1万施設	約24%	約40%	約62%
下水道管きよ 総延長約44万km	約2%	約7%	約23%
港湾岸壁 約5千施設	約7%	約29%	約56%

国土交通省「社会資本等の老朽化対策等の取り組み状況」より抜粋





② どこでも同じ から 地域にあわせて

- ・ 標準設計 から 地域にあわせて
高度成長期
短期間に大量に供給するに標準設計が効率的



量から質の時代
地域にあわせたきめ細かい設計



地域にあわせたってどういう意味？
・ 地域の特性にあわせた(気候・地形・・)
・ 地域によって異なるニーズにあわせた

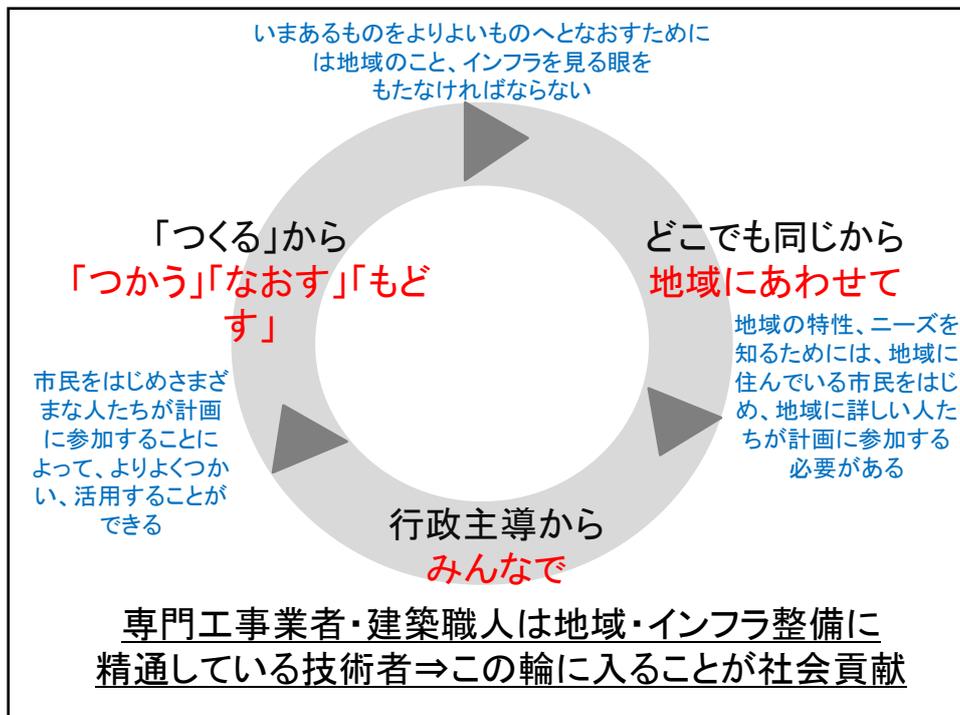
③ 行政主導 から みんなで

- ・ これまで、公共工事は行政が主導して行ってきた

価値観の多様化
市民参加の広がり
維持・管理への市民参加への期待

これからは、使い手である市民を含めた
多様な人々が構想・計画段階から積極的に参加する

市民が参加することで…
使い勝手のいい(=使われる)公共施設へ
維持・運営への市民の積極的な参加
地域への愛着や誇りを育てる



2. 地域づくりの担い手と建設産業

専門工事業者に対する調査 若手の建設技能労働者が入職しない原因

- ・収入の低さ 57.7%
- ・仕事のきつさ 44.3%
- ・休日の少なさ 37.8%
- ・作業環境の厳しさ 36.3%

・職業イメージの悪さ 28.7%

2013年調査によると子どものなりたい職業の10位に「大工」があがっている。



具体的にどんな仕事なのかわからない
地域のなかでどのように役に立っているのかわからない
のではないだろうか？

就職意識のランキング

1位 社会や人から感謝される仕事がしたい 95.7%

日本生産性本部・日本経済青年協議会 平成25年度新入社員「働くことの意識」調査より
2010年から1位

仕事が変わっても犠牲にたくないこと

1位 仕事とプライベートの調和を保つ 32.3%

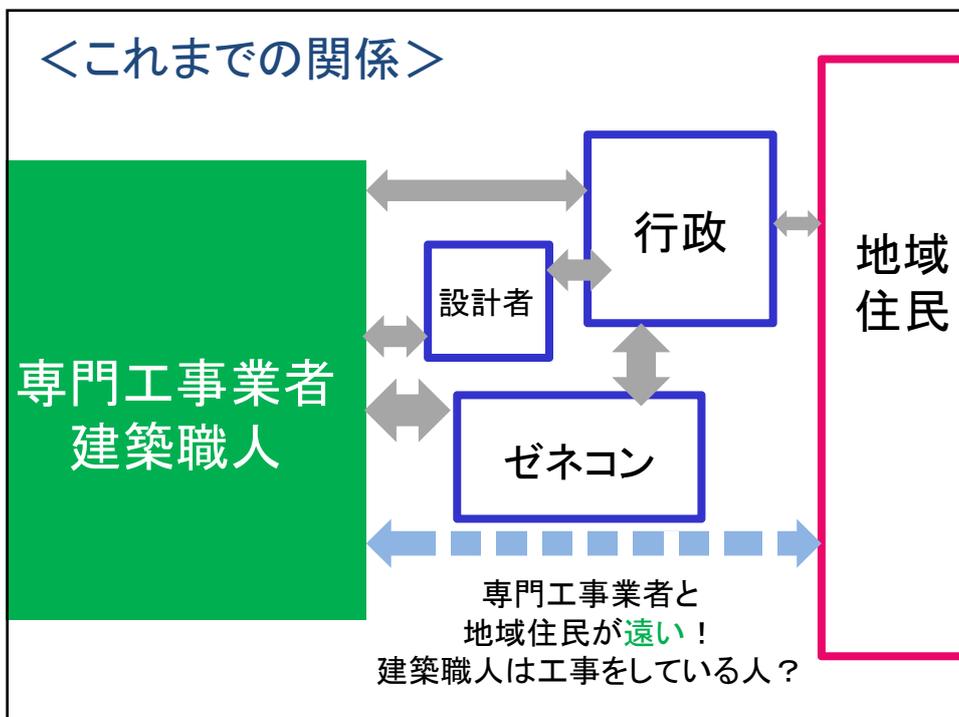
2位 誰かの役に立ち、社会に貢献する 28.6%

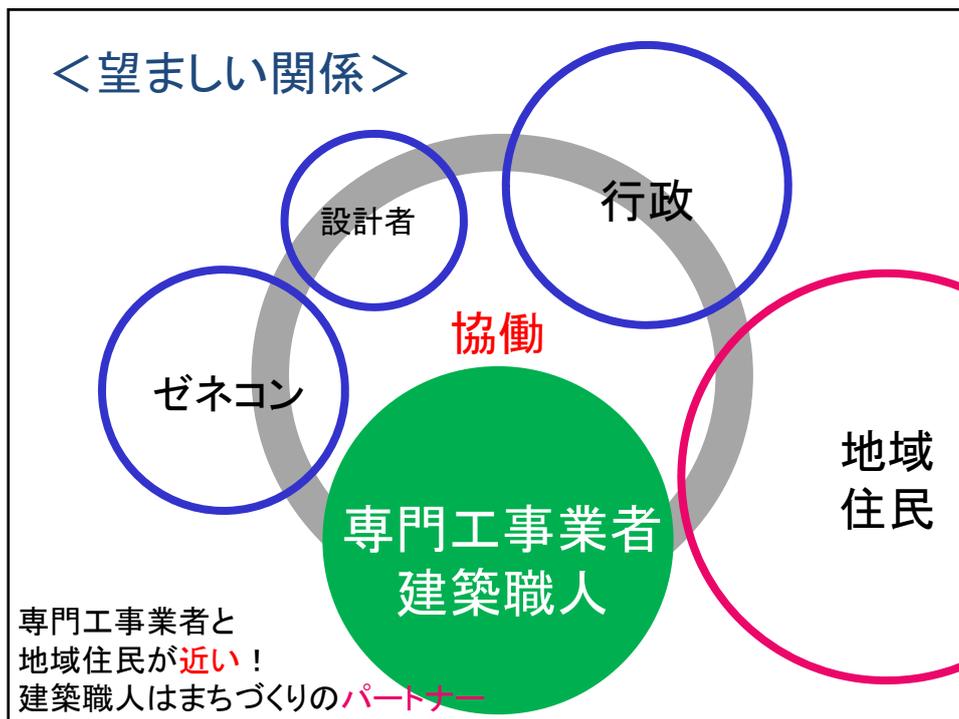
3位 安定して心配なく仕事ができる 17.4%

日本能率協会 2013年度新入社員「会社や社会に対する意識調査」より

何か社会のために役に立ちたいと思っている人の割合 内閣府調べ

1980年代前半 約45% ⇒ 2010年以降 約65%





市民普請

普請とは… あまねく(普く)こう(請う)
社会インフラを地域住民(集落の受益者)が力を
あわせてつくり、維持していくこと。

市民普請とは…

『市民が主導的な役割を果たしながら、地域を豊
かにするために実践する公共のための取り組み』
土木学会 ex.ヨコハマ市民まち普請事業

市民普請:佐渡 加茂湖の事例





閉ざされた関係から開かれた関係へ

- 間接的に伝わる・伝える → 直接人と人が会う
- 見える化で信頼を育てる
顔が見える・技術が見える・意思が見える

現場から変える、変わる

見える化は現場を開くところから。
自分たちを開くことで変わっていく。
多様な人が働くことで現場がもっと身近になる。
(若者、女性が現場で働いている)

そもそも
現場ってどこだろう？

地域づくりを めぐる変化

「つくる」から
「つかう」「なおす」
「もどす」

どこでも同じから
地域にあわせて

行政主導から
みんなで

専門工事業者・建築職人は
地域に精通している技術者

地域の担い手と 建設産業

専門工事業者
建築職人

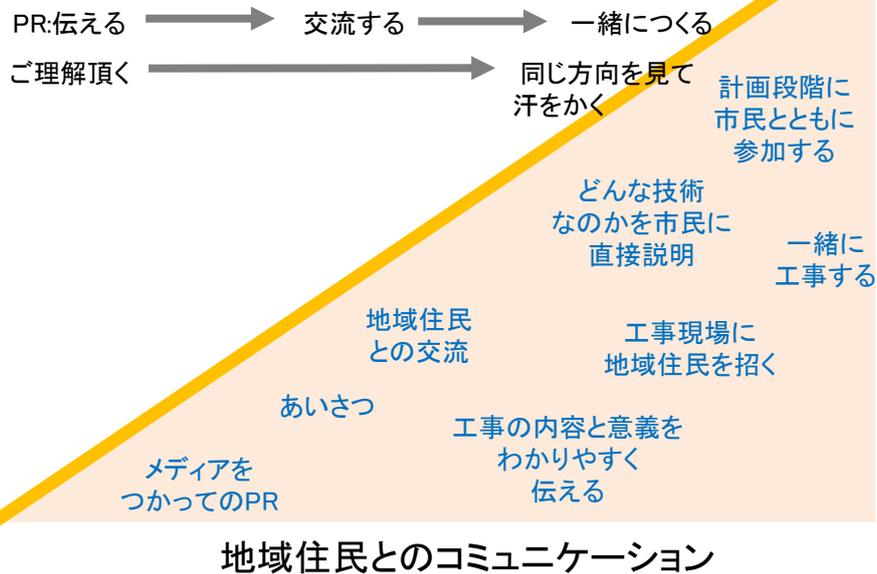
地域
住民

専門工事業者は
地域づくりのパートナー

地域に貢献していることを
地域住民と接することで実感

入職者が増える！

3. コミュニケーションを鍛える



これまでのコミュニケーション

= 応答のコミュニケーション

- ・聞かれたことに答える
 - ・わからないこと、確認したいことを聞く
- ハウレンソウ

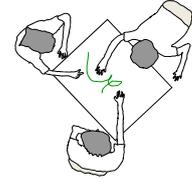
大事なものは **正確さ、スピード**

これからのコミュニケーション

= + 協働のコミュニケーション

- ・異なる価値観を持った人と一緒に **地域の課題解決** するための **建設的な話しあい** ができる能力
 - ⇒ 相手の興味・関心を引きだす **聞く力** を育てる
 - 自分と違うことを受け入れる
 - こたえる → 伝える
 - れたとおりに → 一緒につくる
- 「**椅子**」からコミュニケーションが鍛えられる

地域づくりのプロとして



専門工事業者は
地域づくりのパートナー。
ただじっとしてはそう認識されない。
地域づくりに自ら積極的に参加する。
そこでさまざまな人と
コミュニケーションすることで
自らの地域づくりの専門性と社会意義を
確認し続けることが
地域づくりのプロとしての誇りを育てる。
工事をする人から
地域を守り、つくる、頼れる存在
になる。